奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】
震央分布図と断面図
【奈良県地震概況】
【奈良県で震度１以上を観測した地震の一覧】
【奈良県で震度１以上を観測した地震の震度分布図】
【地震一口メモ】
「南海トラフ地震臨時情報」について１／３

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年１月より月１回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2026 年９月

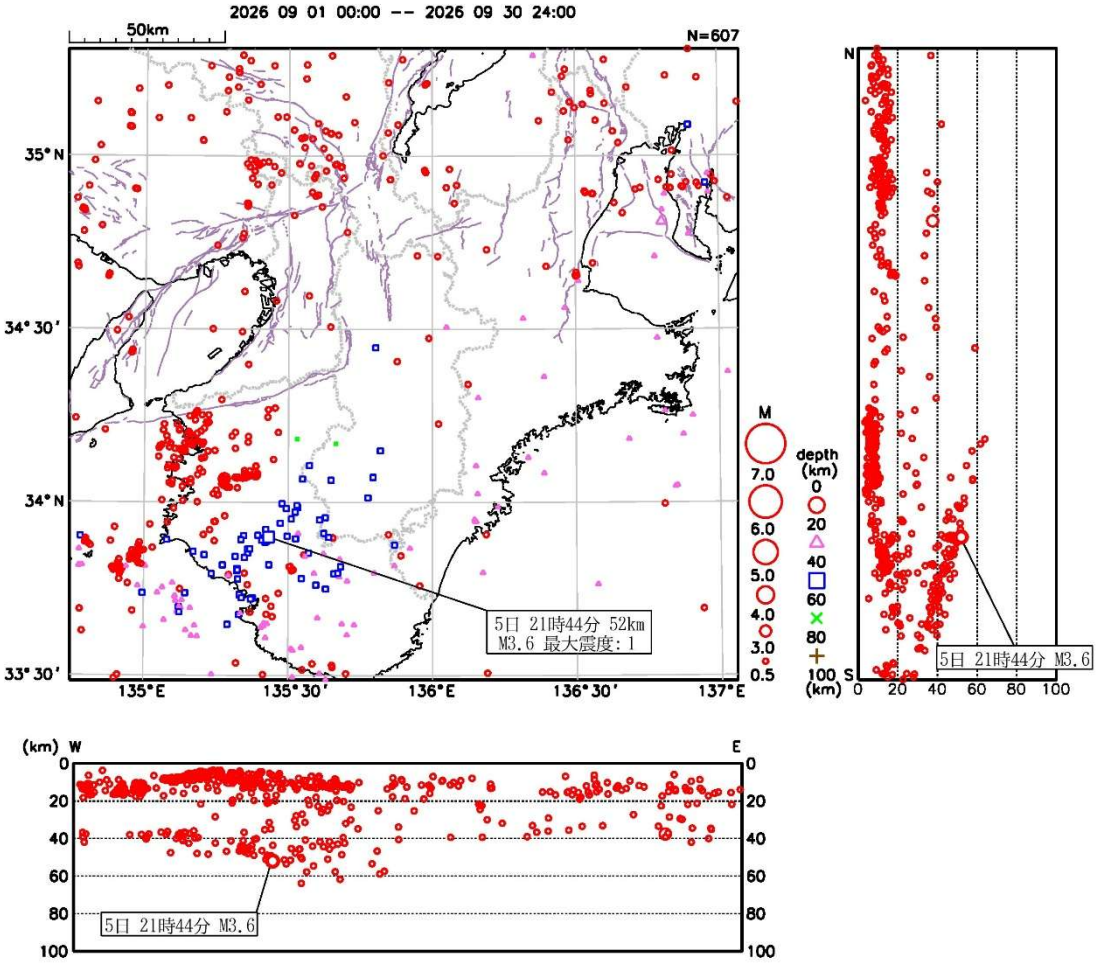
本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。
URL：https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさで地震の規模（マグニチュード、M とも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度 1 以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模などを記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

５日 21 時 44 分 和歌山県南部の地震（深さ 52km、M3.6）により、奈良県内では下北山村で震度１を観測しました。

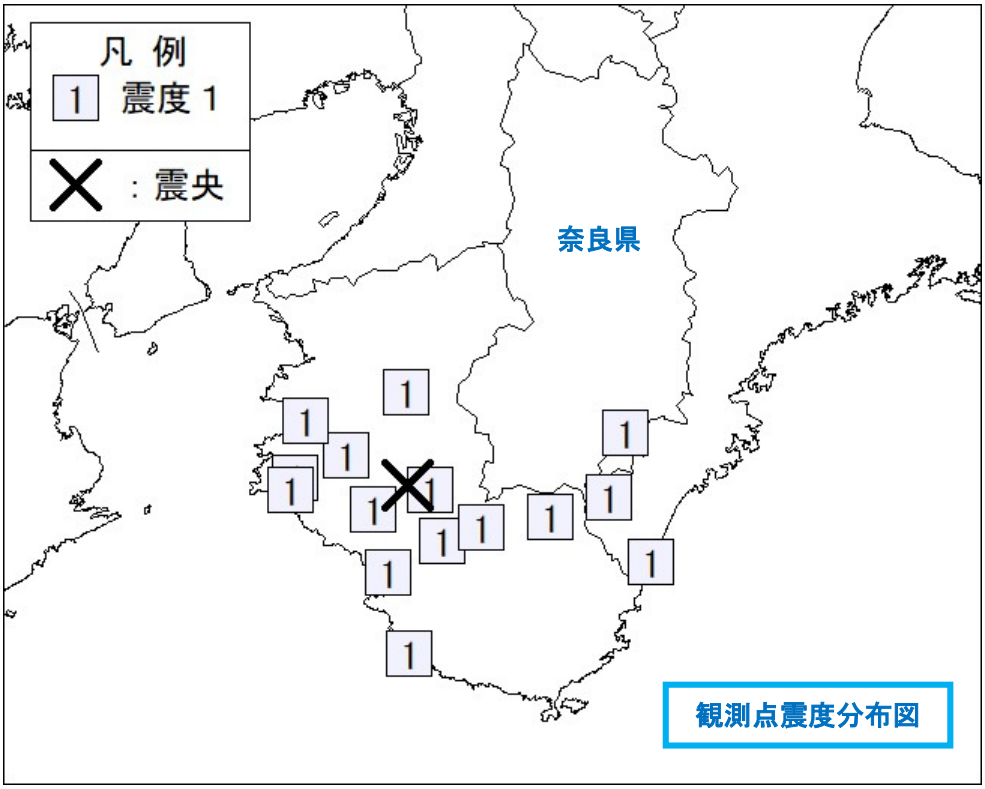
【奈良県で震度１以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2026 年 09 月 05 日 21 時 44 分	和歌山県南部	33°53.9'N	135°25.9'E	52km	M3.6
震度 1 ： 下北山村寺垣内＊					

＊印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度１以上を観測した地震の震度分布】

2026 年 09 月 05 日 21 時 44 分 和歌山県南部 33°53.9'N 135°25.9'E 52km M3.6



【地震一口メモ】

「南海トラフ地震臨時情報」について１／３

今月から３回に分けて、南海トラフ地震臨時情報について説明します。今月は、南海トラフ地震の特徴と地震への備えについてお話しします。

○南海トラフ地震

南海トラフ地震とは、駿河湾から日向灘沖までのプレート境界を震源とする大規模地震で、概ね100～150年間隔で発生しています。過去には宝永地震（1707年）のように想定震源域のほぼ全域で同時に地震が発生したことがあるほか、安政東海・安政南海地震（1854年に2回に分かれて発生）、昭和東南海・昭和南海地震（それぞれ1944年、1946年に発生）のように、東側半分の領域で大規模地震が発生し、時間差をもって残り半分の領域で大規模地震が発生した事例もあります（図）。

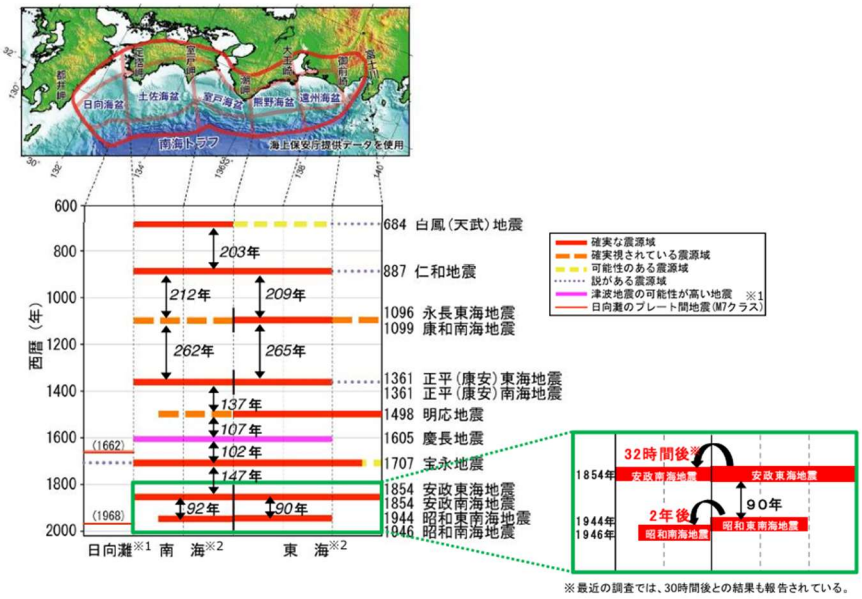


図　南海トラフ沿いで過去に発生した大規模地震の震源域の時空間分布
南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく 防災対応のあり方について（報告）平成29年９月中央防災会議
https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h290926honbun.pdf　p4

2026年は甚大な被害が発生した昭和南海地震（1946年12月21日）の発生から80年となる節目の年です。前回の南海トラフ地震(昭和東南海地震(1944年)及び昭和南海地震(1946年))が発生してから約80年が経過した現在は、**次の南海トラフ地震発生の切迫性が高く、南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくない状態です。**

○日頃から行う地震への備え

南海トラフ地震から自らの命や家族の命を守るためには「日頃からの地震への備え」を実施することが大切です。大きな地震が起きた時はまずは自分の身を守る行動を取りましょう。そのうえで、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたら、政府や自治体から呼び掛けられる、「南海トラフ地震臨時情報」のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了など）に応じた防災対応をとることが大切です。

次回は、南海トラフ地震臨時情報や南海トラフ地震関連解説情報、臨時情報に付記するキーワードについてお話しします。